



だっこするよ

平成28年6月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台 1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

チルドレンファースト こどもは社会の宝です

入園、進級して2か月、ひよこ組からほし組までそれぞれに自分の好きな遊びを見つけてどんどん遊び始めています。友だちのことも気になりつつ、目も手も良く使って時間が足りない、もっともっと遊びたいと言っているようです。そして、お世話をしてくれる担任を見つけると、嬉しそうに目で追い、手を伸ばして「抱っこして〜」甘える姿がとても可愛らしいです。そして、大人もたまらなく嬉しそう。これからずっと相思相愛です。昼間のお家、大きな家族になってきました。安心した環境の中で伸び伸び育てて欲しいです。

チルドレンファースト=こどもは社会の宝である。その意味は、こどもの最善の利益を保障すること、こどもを社会全体で尊ぶことだと受けとめています。社会全体で、どんなときも先ず「こども」に目を向け、「こども中心主義」、「こどもを主体にして世界をとらえる」という意味です。こどもは、未熟で自立していない存在ですが、そのことを大人が日頃どのように受け止めているのかが大切になります。大人の都合や管理の目で育てるのではなく、未熟で自立していない存在であることをそのままを享受して、こどもの立場になって受けとめてあげることでしょうか。自我の芽生えと共に「今はやりたくない」「泣きわめく」大人は、どうしてこちらの話を聞いてくれないのかと困ることが日々起こります。「反抗？」と見えることもあります。本当に子どもを尊ぶとは・・・難しいですね。寄り添う大人側にゆとりがあるかどうかいつも試されているように思います。

「こどもは大人ではなくこどもである。」このことに立ち戻り、未熟で自立していない存在であることは「うまく言えない、分かっているけど出来ない」一つ一つこども自身が困っていることをありのままに「それでいいんだよ」「泣いてもいいよ」とそんな眼差しで受けとめてあげたいと思います。そこが出発点かなと思います。きっと私たち大人もそうして沢山の愛情の中で育てられてきたのだと思います。

ただ、社会の中で生きていくためには、限度を決めることも大人の仕事です。「泣いても今は駄目だよ」「いけないことは駄目」ということも必要。でもそのとき厳しい態度であっても「あなたはうちの大事な存在だよ。」という想いはこどもに伝わります。こどもは賢いです。社会全体が、こどもたちの生きる権利を尊び、地域で沢山の大人に出会い育つこと、保育園はまさに地域社会です。「どのこもうちのこ」として一緒に子育てしていきましょう。大人を信頼して育つ子は、自身が大人になったときに小さな生命を尊ぶ親になるはず。これからも職員一同、一人ひとりの名前を呼び、目を合わせて、唯一無二の存在を讃え合う保育を行って参ります。さてさて、このところ消費税の増税延期のニュース。子ども・子育て家庭を対象に、幼児教育、保育、地域の子ども・子育て支援の質・量の拡充を図るとスタートした子ども子育て支援法？保育士処遇改善などなど社会保障の行方がどうなるのか・・・危惧しております。乳幼児期は人生のスタートです。人が人と育ち合える園創りを、チルドレンファーストの社会を実現していきたいものです。6月 梅雨も子どもたちと楽しみます。写真はほし組さんが食育で夏野菜、枝豆、そら豆、新じゃが芋を買いにマルエツに行った時のものです。どんどん地域へ出かけ、働く大人に出会い、社会を体験していきたいです。